様式１〔申し合わせ事項〕:【委員会、全協：共通様式】

〔氏名：　三 宅　耕 三　〕　2023.8.21

「地方議会改革の論点と課題」

四日市大学副学長　小林　慶太郎 講師

①研修テーマに即した所感

議会改革の中でも、特に経験と改革に前向きな姿勢がないと「通年議会」は中々理解できない。もし、今回の研修を議会改革に慎重な立場で計画したとしたら、事例のあげ方も取り止めた事例も、思い通りだったのだろうが**「議会は住民の意思を的確に反映させ、東員町として最良の意思決定を導く責任を負っているとなっている以上、議会が主体性を持って議会運営を行っていくのは当然で、議決責任を自覚している議会なら議長の本会議招集は当然のこと。**

議長任期では、委員会を２年に決めた時点から議長任期の議論は始まっており、議長任期１年が終わった時点で２年任期の委員会メンバー.の構成が崩れるということから、**議長任期を委員会任期に合わせるという大義がある**。それにも拘らず、議運では議論すらされていない。

今回、講師の口から「再任を妨げないという決め事があるのならもう一度立候補すれば良い」という趣旨で、事前打ち合わせしたかのような慎重派議員と同様の話が出たことは、今回の講演の後ろ向きを象徴する形となった。

研修内容は、重要なところがお座なりになっており学生向けだったら良いと思うが、資料を揃えて問題提起しただけの講義で、**議会改革という住民にとって前向きな議論にならなかったことは大変残念**で反面教師にしたい。

②今後、研修で得た知識等について、町議会活動にどのように反映するか

東員町議会の議会運営委員会では、定例会の会期以外で議会改革の議論らしい議論が殆どされておらず、議長の諮問にも全く答申がなく議運の機能が停止状態にある。議会の中枢を担う議運が機能していない中で、今や新しいものを取り入れることは不可能で、前進どころか停止状態にある議会を後退させないように苦言を呈することが、せめてもの思いやりである。

③その他（特になければ記載不要）

講師に資料提供（上越市議会）したとの話があったが、成功事例ではなく取り止めた事例を資料として提供したことも如何なものかと思うが、そもそも講師に意図的に話をしたり資料提供という事があったとしたら、講師にも議員にも失礼極まりなく、誰のために議会があるのかを問いたい。

以上